

青梅市文化財ニュース

第420号

令和4年10月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

60周年を迎えた 大人も子供も楽しめる 青梅鉄道公園



今年は、明治5(1872)年9月、新橋・横浜間に日本初の鉄道(蒸気機関車)が開業してから150年を迎え、各地で記念の催し物が開催されています。市内にも鉄道に関連する施設があります。

JR青梅駅北側の永山公園東にある青梅鉄道公園です。

正式名は、『(公団) 東日本鉄道文化財団 青梅鉄道公園』です。昭和37(1962)年10月14日、当時の国鉄(旧日本国有鉄道)が鉄道開業90周年を記念して開設しました。同年10月19日には、当時の国鉄総裁のそごうしんじ十河信二氏が来園され、鉄道90周年記念碑除幕の開園式を行ったという記録が残っています。その碑は、公園入場門のすぐ近くにあります。

親子3世代・4世代にわたって訪れたご家族もいるのではないのでしょうか。昭和・平成・令和の時が過ぎ、今年の10月14日に開園60周年を迎えました。

当時は、実物車両10両(蒸気機関車8, 客車2)が屋外展示、模型鉄道パノラマ、鉄道車両模型、鉄道解説パネルが屋内展示されました。昭和47(1972)年には、『D51形蒸気機関車』の展示が開始されました。開園から11年が過ぎた昭和49(1974)年5月には入園者数が200万人を超えました。



D51形蒸気機関車

昭和55(1980)年には、昭和天皇・皇后陛下が視察しています。その後、平成8(1996)年には、平成天皇・皇后陛下が立ち寄られました。天皇陛下ご夫妻が2代にわたり、訪問されているのは貴重なことです。

屋内施設には、大人も子供も楽しめる鉄道パノラマ、鉄道車両のヘッドマークや鉄道や中央・青梅線の歴史を知るコーナーもあります。いずれも、画像や掲示資料があり、とても分かりやすいものばかりです。

敷地内には、『0系新幹線』車両（初代新幹線 だんご鼻の形の新幹線）が展示されていることでも有名で、日本の鉄道遺産の一つとして、今なお、立派な姿を来園者に見せています。



0系新幹線

昭和 58(1983)年まで青梅線を走っていた国鉄初の長さ 20m の『電動車 40 系電車』（片側 3 つの扉、ロングシートの通勤車両）も屋外展示されています。また、準鉄道記念物であり、平成 30(2018)年に国の重要文化財に指定された『E D 一六形式一号電気機関車』も展示されています。



電動車 40 系電車

園内の掲示板には、「電気機関車としては日本最古の形式で、当初は中央線（八王子－甲府間）や上越線（水上一石打間）で使用されていました。その後、昭和 40(1965)年以降は青梅線・南武線の貨物輸送の主力となり、半世紀に渡り活躍した」と書かれています。



E D 一六形式一号電気機関車（重文）

また、園内の施設には、昭和 57(1982)年、市内を襲った台風 18 号の豪雨による土砂災害で車両の崖下転落や複数回にわたり施設内の修繕等をした記録が残っています。

令和 4 (2022)年 8 月現在、青梅鉄道公園にのみ現存されている『E 10 形蒸気機関車』をはじめ、10 両が屋外展示されています。

平成 28(2016)年～平成 30(2018)年の来園者は年間平均 70,000 人です。感染症の影響により、ここ数年は来園者が減少気味との話を伺っています。土・日は開園時間前になりますと家族連れが入場門前に並んでいます。子供たちがうれしそうに電車を見る姿やご家族と記念写真を撮る姿・鉄道のことやその歴史を説明している来園者の様子を伺うと、青梅鉄道公園は、開園してから 60 年経っても、その人気ぶりは今も変わりません。感染症が収束して、一日にも早く、以前のように多くの方々が青梅鉄道公園に来園されることを願っています。

（文責 塚田直樹）